

本学創立103周年式典



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼人 中原 泉
編集日 偶数月末日
発行部 1部10円
定価 編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

二百余名が参列

本学の創立一〇三周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見において挙行された。

日本歯科大学創立一〇三周年記念式典は、六月一日、来賓、教職員、卒業生、学生等三百余名が参列して、生命歯学部本館八階富士見ホールにおいて挙式された。

定刻前十時三十分、鈴木洋一庶務部長が開式を宣し、筑土神社祭司が神事を執り行った。

本学の沿革が祝詞の中で朗々と奏上されたのち、玉串奉奠に移り、中原泉理事長・学長がホール壇上に設けられた神前に進み出て、玉串を奉奠し参列者は二礼二拍手一礼をもって同拝した。

参列者を代表して、中原レチ子、小倉英夫、住友雅人、光安一夫各理事、佐々木章監事がおのの玉串を捧げた。

ここで中原理事長は挨拶に立ち、最悪の事態を想定して新型インフルエンザへの対策をたて、今年度は名譽博士号授与式を延期したと述べ、ついで「本学創立者の中原市五郎先生は、明治二十二年の五月に当時の医術開業歯科試験に合格し、開業免許を受けた。その番号が八十六号なので、当時に正規の免許を得た歯科医師は八十六人しかいなかった。それから一年足らずで市五郎先生は明治二十三年の三月に診療所を開設した。靖国通



創立103周年を迎え、挨拶する中原泉理事長・学長

神楽坂上に420坪を取得

本学はこのほど、東京都新宿区筑土八幡町の土地四二〇坪を校地として買収し取得した。同校地は神楽坂上にあり、本学飯田橋駅前附属病院から徒歩十分の距離である。

同校地は、新宿区筑土八幡町五番地、大久保通り面に面した五差路の角地である。隣地は筑土八幡神社で、斜向いには東京厚生年金病院があり、

周囲環境は良好である。広さは一、二七七・二〇m(四二〇坪)の更地で、神楽坂上の交差点から東へ二分の所にある。本学では、東京キャン

バスを将来計画の一環として、飯田橋駅前角地の体育館が築四十年で老朽化しつつあることから、将来、同館を建て替える代替地として、同地を取得した。

同校地は、駅前附属病院から徒歩十分の近距離にある。

りを下った九段下に組橋という橋があり、そのたもとに開業した。神田川の一番角のところで、現在は二十坪ほどの小さな公園になっている。東京市麹町区飯田町二丁目六十七番地、現在の千代田区九段北一丁目一番地で、開業の地としては最高の所だった。ここで開業医として盛名を馳せ、開業から十七年後の明治四十年に本学を創立した。

現在、歯科医師の資質向上が言われているが、歯科医師は高度な専門職であるとともに、人命と健康を守る社会的使命を有している。文部科学省で歯学教育の改善充実に関する調査研究協力者会議が昨年度開かれ、第一次報告が今年の一月に出された。この報告書で初めて歯科医師の資質を明記し、次の七点あげている。

第一は基本的な学力、第二は主體的に学ぶ力、第三はコミュニケーション能力、第四は誠実さ、第五は責任感、第六は倫理観、第七は人の痛みを理解する心、この七つで

ある。従来から歯科医師の資質という点、大学入試試験の偏差値の高さ、あるいは国家試験の合格率の高さなど、従前の点数主義のみで評価してきた。学力能力は必要なのだが、人の体に医学的侵襲行為を行う職業人になるので、点数主義で選んではならないと私は思っている。多様な方法で受験生や学生に対して資質があるか否かを見極めていく必要があるだろう。今や日本歯科大学は歯科大学のトップブランドとして高い評価を受けて



中原理事長から表彰を受ける永年勤続者たち

いる。創立一〇三周年にあたり先人の努力と尽力に感謝を申し上げる」と述べた。

つづいて光安一夫校友会会長は、「今年の国家試験の合格者は、約四十パーセントが女性だった。女性の歯科医師は、必ずしも医療に従事しているわけではない。家庭の専業主婦で、時々診療を手伝うという方もいる。しかし本学は一〇三年にわたる歴史ある大学なので、男女を問わず、卒業生は母校の現状と将来に対して深い関心を持っている

IF(インパクト・ファクター)一・八

Odontology 驚くべき快挙

本学歯学会(宮川行男会長)の学術機関誌「Odontology」に、このたび国際学術誌の格付けの一つであるインパクト・ファクター(IF)の二〇〇八年分として、一・八三三が付いたことが公表された。

同誌は、国際学術誌として評価をうけるプロセー(IMP)の二〇〇八年分として、一・八三三が付いた。

現在、歯科医学・口腔外科学関係でISIデータベースに収録されている世界のジャーナルは、JDRはじめ五十五誌あるが、同誌のIFはその二十、一番目という高い値となる。また、五十五誌のうち

だろ。これからは女性の卒業生を掘り起こし、校友会に振り向いていただこうと思っている。大変厳しい時代ではあるが、教職員の皆さんと一緒に、百年の歴史を越えて日本歯科大学にふさわしい校友会にしていきたい」と挨拶した。

ついで永年勤続者表彰に移り、三十年勤続十五名、二十年勤続十一名が壇上にあがり、中原理事長から代表者に賞状と記念品が手渡された。

永年勤続者を代表して江面晃教授(新潟病院総合診療科)が、「日本歯科大学に奉職してから三十年、この間、コンピュータ化による教育・診療・研究の変化があり、高齢化による口腔ケアを継続することに、歯科医師が終末期医療に関与

☆三十年勤続表彰(生命歯学部)

南雲 保(生物学)

波多野泰夫(補綴学2)

佐藤健児(放射線学)

那須優則(共同利用研(附属病院))

西田紘一(総合診療科2)

平賀 泰(総合診療科4)

石川千佐子(総合診療科4)

藤田裕紀(臨床検査)

山下陽介(物理学)

栗川三男(解剖学1)

石塚健一(生理学)

加藤千穂美(微生物学)

熊木三夫(用度管理)

〈新潟病院〉

江面 晃(総合診療科)

〈新潟短期大学〉

須貝将紀(事務部)

☆二十年勤続表彰(生命歯学部)

石井文子(図書館)

仲谷 寛(総合診療科3)

小林隆太郎(口腔外科)

竹沢美津枝(放射線検査)

橘 弘之(技工室)

西口はづき(衛生士室)

〈新潟生命歯学部〉

岡 俊哉(生物学)

〈新潟病院〉

藤井一維(麻酔・管理)

外山三智雄(放射線科)

〈医科病院〉

松井信子(看護科)

〈新潟短期大学〉

丸山早苗(事務部)

日本で発行する学術誌は、同誌と日本歯科理工学会のDMJの二冊のみであり、また歯科医学総合雑誌として「Odontology」一冊である。

今回のIFの付与は、同誌が日本を発信基地とする国際学術誌として高く評価され、国際歯科専門誌として認定されたことを意味する。各大学の研究者からは、ISIデータベース収録につづく「驚くべき快挙」として絶賛されている。

今後、年二回発行の同誌は、国内外から優れた論文の投稿が増加し、益々、その評価を高めることになるだろう。

創立100周年記念グラントを終えて

生命歯学部口腔外科学講座 佐藤 田鶴子

三年前、記念すべき創立百周年を迎えた六月一日の富士見ホール。中原泉学長は百周年記念グラントに、私どもの研究テーマが採択されたことを発表されました。これこそまさに青天の霹靂でした。これは『創立百周年を記念して、獨創性と新規性のある大規模な研究プロジェクトに対し、三年間にわたり大型の研究グラントを支給する』という本学初の競争的研究資金の公募であり、またその対象は、『学内外複数の研究者による学際的かつ高度な研究プロジェクトとし、社会的かつ学術的インパクトのある研究成果を求める』という

三年前、記念すべき創立百周年を迎えた六月一日の富士見ホール。中原泉学長は百周年記念グラントに、私どもの研究テーマが採択されたことを発表されました。これこそまさに青天の霹靂でした。これは『創立百周年を記念して、獨創性と新規性のある大規模な研究プロジェクトに対し、三年間にわたり大型の研究グラントを支給する』という本学初の競争的研究資金の公募であり、またその対象は、『学内外複数の研究者による学際的かつ高度な研究プロジェクトとし、社会的かつ学術的インパクトのある研究成果を求める』という

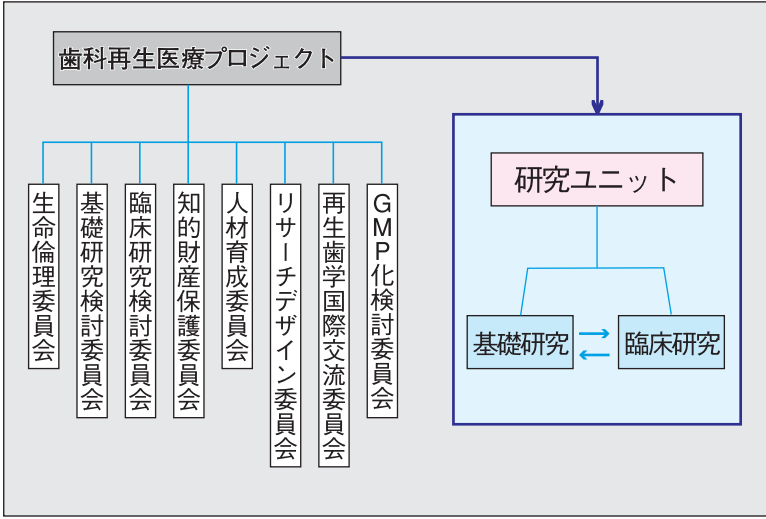


壮大なものでした。五年前に新生した生命歯学部口腔外科学講座では、その頃、松野智宣准教授を中心に再生医学の基礎的研究が進められており、京都大学再生医学研究所や産業技術総合研究所をはじめとする共同研究も軌道に乗りかけていた時期でした。そこで私たちはこのテーマに対し四つのキーワードからなる、『歯科再生医療のための医歯工融合プログラム』という研究課題で申請しました。これは東京・新潟の学内研究者と他分野からなる五つの施設の研究者で組織されたプロジェクトチーム

その目的は、本学における歯科再生医学研究の発展から歯科再生医療実現のため複数の委員会からなるプロジェクトを構築し、さらにこれからの再生医学・医療を担う若手の研究者を育成するという内容でした。しかし、いざ採択されますと喜びに満ちた希望は束の間、その重責、そして不安さえ感じたのは事実です。そこで、ちょうど直前に新設されたばかりの生命歯学部新図書館の玄関上の石壁面にある、中原市五郎先生の『世に立つに必要なことは、目的と見透しと努力の三つである』の言葉を胸に、その後の本研究プロジェクトを多くの共同研究者の御協力のもとに推進してきました。

それでは私どもの三年間のグラント研究の成果の一部を紹介致します。なお、この内容は平成二十一年六月六日（土）に新潟生命歯学部講堂で行われた、平成二十一年度歯学会大会で発表いたしました（写真）。また現在、詳細な研究報告書を作成しております。まずシステム構築ですが、最終的には八つの委員会とそれを束ねる歯科再生医

療プロジェクト、そして基礎および臨床研究を行う研究ユニットを形成し、再生医療プロジェクトは本グラント研究推進のための実質的組織であり、各委員会の活動状況を報告をはじめ、予算、さまざまな協議事項などグラント研究全体のとりまとめを行い、計十一回の打ち合わせ会議を開催してきました。生命倫理委員会はグラント内で行われるすべての研究が、生命倫理上の妥当性を学外の学識経験者とともに審査する部門でした。基礎および臨床研究検討委員会は生命倫理委員会で承認された研究の計画、進捗状況、結果の評価などを進め、GMP化検討委員会、再生歯学部国際交流委員会、リサーチデザイン委員会、知的財産保護委員会、臨床研究検討委員会、基礎研究検討委員会、生命倫理委員会



△歯学会大会でモデレーターを務める筆者 左は佐藤聡教授（新潟・歯周病学）
◁図 歯科再生医療実現へのシステム構築

臨床研究では、本学としては初めての介入型の再生医療研究（歯槽骨再生）が行われました。また、知的財産保護委員会は本グラントで行われた研究から特許を申請する場、学内での申請窓口となり、その手続きおよび申請後の管理を行う部門です。本研究グラントでは三つの特許が申請されました。また、他機関との共同研究を行う際に必要な契約とその諸手続きのあり方を検討・実行しました。

これらは結果的に本学の公的なシステムとなり、現在は庶務部が引き継ぎ、学内の研究者にとつて重要な部門として発展しました。人材育成委員会は、それぞれの研究の第一人者を招いて定期的に計十回開催された「歯科再生医療ミーティング」や関連学会・技術講習会・セミナーなどへの参加や他施設への留学派遣などを通じて、再生医療を自発的・発展的に展開できる基礎研究者と臨床研究者などの人材を育成してきました。リサーチデザイン委員会は妥当性があり、効率の良いエビデンスに基づいた研究を行うため、研究計画立案の補助から統計処理、成果報告までをサポートするもので、これが礎となつて今後も発展してもらいたい部門でした。GMPと

は医薬品や医療器材の作製を厳密な基準で文書化したもので、GMP化検討委員会では、本グラント研究で開発した新規骨髄炎治療材についての作製手順書を作成し、製本化しています。

再生歯学部国際交流委員会は、本学における再生歯学部研究を国内のみに留めず、国際的に幅広く認知してもらうための国際交流を目的し、海外共同研究の基盤となりました。その中でエジプト・アレキサンドリア大学ティンキエングニアリング研究所との国際交流を行いました。これらシステムは本学のみならず、まさに医歯工の他施設からの研究者の協力のもと融合し構築されたものです。次に本グラント研究の成果ですが、これまで基礎研究十三課題、臨床研究二論文を含め（二〇〇九年六月末現在）、五論文すべて国際誌に掲載されました。また、三件の特許申請をはじめ、現在継続している研究から九段ホールで

「研究体制のルネッサンス」は研究者自身の『意識の改革』から、まさに今、私たちに研究に限らず『意識の改革』が求められているのではないのでしょうか。最後にこのような、千載一遇の機会を与えて頂いた中原泉学長をはじめ、大学当局、そして、終始、本研究を支援して頂いた学内外の研究者・関係者各位に深甚なる謝意を表します。

これまで述べてきましたように、本グラント研究の最大の特徴は研究体制にあります。すなわち研究のプロジェクト化です。これまでの単独で行うものから、他講座あるいは他施設さらには他分野とのプロジェクト形成による研究が、今後は必要不可欠ということになります。本年度から生命歯学部では、獨創性と新規性のあるチーム・プロジェクト研究に競争的研究資金を支給することになりました。本グラント研究の成果の一部がここにも反映されたようです。私は今年度の歯学会大会の最後を次のように締めくくりました。

表 共同研究施設

| | |
|----|-------------------------------------|
| 医学 | 京都大学 再生医科学研究所 臓器再建応用分野 准教授 中村達雄 |
| | 国立感染症研究所 ウイルス第2室 室長 鈴木哲朗 |
| | 東京慈恵会医科大学 解剖学講座第2 教授 石川 博 |
| 歯学 | 大阪歯科大学 歯科理工学講座 助教 橋本典也 |
| 工学 | 産業技術総合研究所 人間福祉工学部門高機能生体材料グループ長 伊藤敦夫 |
| | 京都大学 再生医科学研究所 生体材料学分野 教授 田畑泰彦 |
| | 早稲田大学 理工学術院理工学部 環境資源工学科 教授 山崎敦司 |
| | 東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 有機材料分野 教授 秋吉一成 |
| 企業 | アドバンス新素材科学研究所 |



花束を手渡される吉田教授

吉田教授（東京）最終記念講義

生命歯学部歯科理工学 多数が聴講した。講座の吉田隆一教授の最終記念講義が、七月十三日に九段ホールで行われた。

「歯科理工学とはー存在価値と研究手法」と題した記念講義には、教職員、大学院生、学生など多数が聴講した。吉田教授は昭和四十年卒。大学院修了後、歯科理工学講座助手を経て、五十三年教授に就任し、学生部長、教務部長、歯学部部長などを歴任した。

記念講演終了後、参加者一同から盛大な拍手を受け、同期生である中原泉学長から記念品が手渡され、学生代表からは花束が贈呈された。

武川先生（73回）、筑波大教授に

本学第七十三回卒業の武川寛樹（ぶかわひろき）先生は、七月一日付けで筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻顎口腔外科学分野（臨床医学系歯科・口腔外科）に就任した。武川教授は、本学歯学部卒業後、筑波大学専門学群卒業、横浜市立大学大学院医学研究科を修了し、千葉大学附属病院講師（歯科・顎口腔外科）を務めていた。